

地域生活ケア論 (子ども)

[講義] 1年・2年 後期 選択 15時間 1単位

《担当者名》福間麻紀[m-fukuma@hoku-iryu-u.ac.jp]

【概要】

児童虐待や子どもの貧困、学校におけるいじめや不登校（ひきこもり）など、子どもを取り巻く状況が深刻さを増すなか、社会的な支援を要する子どもや家庭は増加している。それらの子どもや家庭に対して、子どもの権利擁護を基盤とした、子どもを守る仕組みとしての制度利用や各専門職・関係者との協働による実践について考える。

【学修目標】

- ・現代社会における子どもと家庭を取り巻く問題とその背景、子どもへの影響を理解する。
- ・子どもや家庭に関する福祉制度やサービスについて、具体的な実践での活用を考えることができる。
- ・子どもの権利と子どもの生活を守る仕組みについて検討できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション 現代の子どもと家族の状況	授業の進め方を確認する。 子どもの定義・子どもと家庭を取り巻く状況（概観）を理解し、現状の課題を検討する。	福間
2	子どもの権利	子ども観の変遷について（保護の対象としての子どもから権利の主体へ）理解し、子どもの人権・権利保障における現状の課題と解決への方法を検討する。	福間
3	子どもを守る仕組みとしての制度・サービス	子ども家庭福祉にかかわる法制度、施設、機関、行政機関の役割を理解したうえで、子どもを守る仕組みを考える。	福間
4	少子化対策と子育て支援	子育ての不安・負担と孤立を解消軽減するための子育て支援制度について検討する。	福間
5	子どもの貧困の現状と支援	子どもの貧困の実態と子どもに及ぼす影響を理解し、子どもの貧困に対する支援の課題と解決方法を検討する。	福間
6	ひとり親家庭の現状と支援	ひとり親家庭の現状を理解し、必要な制度・サービスを考える。 DV問題の現状と法律・制度を概観し、問題の解決に必要な取り組みを考える。	福間
7	児童虐待の現状と支援	児童虐待の実態と現状の支援策を概観し、予防と早期の介入支援、継続的な家庭支援の方法を検討する。	福間
8	学齢期の子どもの現状と支援	学齢期の子どもの問題（いじめ、不登校）の実態から、子どもを主体とした実行可能な対策を検討する。 まとめ	福間

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

プレゼンテーション（30%）、準備・参加状況（30%）、課題レポート（40%）

【教科書】

なし

【参考書】

適宜紹介する

【学修の準備】

各テーマに関連する文献や報道資料などを読み、ディスカッション・プレゼンテーションの準備をすること

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

<看護学専攻>

本科目の内容は、看護学における高度な専門性と研究能力を修得するという看護学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。

<臨床福祉学専攻>

本科目の内容は、臨床福祉学における高度な専門性と研究能力を修得するという臨床福祉学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

社会福祉士